

総 説

重症薬疹の発症における遺伝的背景

相 原 道 子

横浜市立大学大学院医学研究科 環境免疫病態皮膚科学

要 旨：重症薬疹近年, 特定の薬剤による重症薬疹の発症にヒト白血球抗原 (human leukocyte antigen; HLA) の関与が明らかにされるようになった。重症薬疹の発症に関与する HLA は薬剤および民族／人種によって異なること, 重症薬疹のなかでも Stevens-Johnson 症候群 (SJS) や中毒性表皮壊死症 (TEN) の発症にのみ関与する HLA とその他の臨床型にも関与する HLA があることが報告されている。日本人においては, アロプリノールによる重症薬疹患者ではヨーロッパや他のアジア民族と同様 HLA-B*5801 の検出率が高く, 一方, カルバマゼピンによる SJS/TEN 患者においては東南アジアで関連が指摘されている HLA-B*1502 は検出されず, HLA-B*1511 と HLA-A*3101 の検出率が高かった。今後, 日本人の重症薬疹発症に関与する HLA を複数の薬剤で明らかにし, 薬剤投与前スクリーニングにより発症率を低下させることが期待される。

Key words: 遺伝的背景 (genetic background), Stevens-Johnson 症候群 (Stevens-Johnson syndrome), 中毒性表皮壊死症 (toxic epidermal necrolysis), 薬剤性過敏症症候群 (drug-induced hypersensitivity syndrome), HLA